

■配管施工基準 長期不在時、凍結防止のために水抜きが必要な地域では、配管の最下部に水抜きバルブを取付けてください。

ふろ配管施工基準 貯湯ユニット～浴そう間

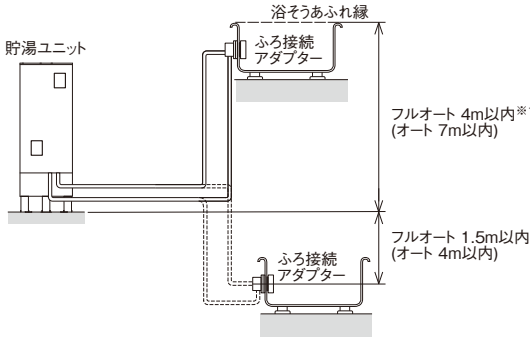
●貯湯ユニット設置面より、浴そうまでの高さは上方4m以内、風呂接続アダプター中心線より下方フルオート1.5m以内としてください。

●配管の種類・サイズにより最大配管長は異なります。

	銅管 φ12.7	架橋ポリエチレン管 13A
最大配管長	15m以内	15m以内
曲り箇所	10ヵ所以内	10ヵ所以内

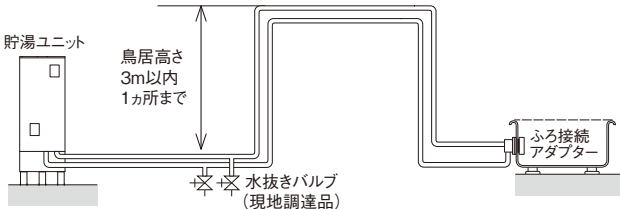
※ウルトラファインバブルアダプター(別売品)を設置する場合は、次の制約に従って施工してください。13A:片道5m以下、5曲がり以下／10A:片道3m以下、5曲がり以下

●貯湯ユニットの設置場所からお湯を使用する場所までの配管長は、できるだけ短くしてください。
配管長が長いほど、じゃ口を開いてから設定温度のお湯が出るまでの時間が長くなります。



※1. フルオートのパワフル高圧給湯は3階用「風呂水位センサー」(別売品)の取付により、4～7mまで対応(3階対応)が可能です。別売品についてはP.29～30・P.48をご覧ください。

ふろ鳥居配管施工基準

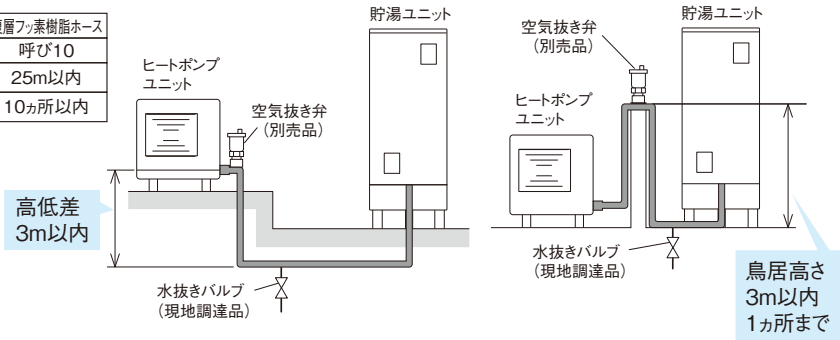


貯湯ユニット～ヒートポンプユニット間施工基準

	銅管 φ12.7	銅二層管(RoHS指令相当品) 呼び13	銅二層管(RoHS指令相当品) 呼び10	架橋ポリエチレン管 13A	架橋ポリエチレン管 10A	複層フッ素樹脂ホース 呼び10
最大配管長	25m以内	15m以内	15m以内	25m以内	15m以内	25m以内
曲り箇所	10ヵ所以内	5ヵ所以内	5ヵ所以内	10ヵ所以内	5ヵ所以内	10ヵ所以内

●銅二層管は、途中(曲げ部等)で継手による接続は行わないでください。
(沸き上げ運転できない場合があります)
●複層フッ素樹脂ホースは、途中(曲げ部等)で継手による接続は行わないでください。
(沸き上げ運転ができない場合や、配管の更新ができない場合があります)

配管長はできるだけ短くしてください。放熱ロスが大きくなります。
鳥居配管はできるだけ避けてください。空気が抜けにくくなります。



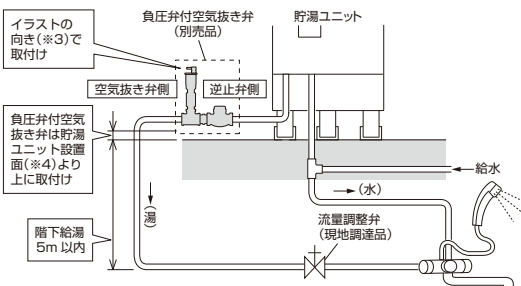
配管全長	5m以内	5～15m	15～25m
保温材厚さ	10mm※2	20mm	30mm

※2. 寒冷地タイプは20mm

給湯配管の制約

階下給湯の場合

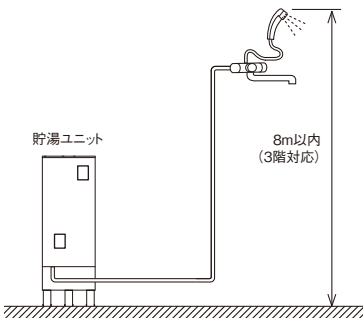
●給湯配管には必ず階下給湯用 負圧弁付空気抜き弁(別売品:KHBK5B43)、流量調整弁(現地調達品)を取り付ける。
空気の混ざったお湯が出る場合は、貯湯ユニットへの給水量が不足しています。流量調整弁で給水量と給湯量のバランスを調整してください。
●負圧弁付空気抜き弁を取り付けず、給水圧がかかっていない状態でじゃ口(湯水混合水栓)を開けたときに、熱いお湯が出てやけどをするおそれがあります。負圧防止や空気抜き以外の役割もあるため、必ず正しい型式の負圧弁付空気抜き弁を取り付けてください。



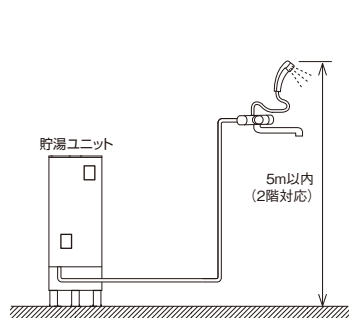
2階、3階給湯の場合

●給水圧力が低いと、十分な性能が得られない場合があります。
●マッサージシャワーヘッドのような抵抗のあるシャワーヘッドを使用した場合、十分な性能が得られない場合があります。

パワフル高圧給湯(330kPa)の場合



高圧給湯(210kPa)の場合



※3階ではシャワーは使用できません。
(手洗い程度であれば使用できます。)

※3. 負圧弁付空気抜き弁は空気抜き弁と逆止弁が一体になった部品です。逆止弁側を貯湯ユニット側に配置して設置してください。 ※4. 貯湯ユニット設置面とは貯湯ユニットの脚が固定されている面のことで、貯湯ユニットが段差の上に設置されているときも、必ず貯湯ユニットの脚が固定されている面より上に負圧弁付空気抜き弁を設置してください。